

EU 統合と日本語教育

今何をなすべきか

蓮沼啓介

【要約】

本研究は Brexit が EU に与える衝撃を緩和する緩衝剤である。数学の論理とは別に言葉のロジックがあることに気付けばルースモデルという新しい EU の理想を発見することができる。EU 標準語の提供を介して UK は良きメンバーとして EU に協力する道が開かれる。日本語教育が協力のお手本を示すことができる。

1. 二つのモデル

EU 統合の理想像が揺らいでいる。それはなぜか。

統合モデルには二類型があるが、どちらが理想なのか選択がなされていないからである。統合モデルの二類型とは何か。タイト (tight) モデルとルース (loose) モデルがある。そのどちらが EU の将来像にふさわしいのか。選択肢がなかなか明示されないという困難な事態が発生している。

二つの論理と統合モデルには関連性が認められる。二つの論理とは何と何か。数学の論理と言葉のロジックのことである。ところが論理といえは数学の論理だけしか考えない人が多い。言葉のロジックの方はこれまで見過ごされ勝ちであった。実行言語の研究が遅れていたためである。日本語を学習して言葉のロジックを身につける。ロジックは知理と論理と霊理の三部門からなる。

アリストテレスのロジックは観察言語に片寄っていて普遍性を欠いているということである。天主教がアリストテレスの片寄りを固定化し神秘化してしまった。例外なき普遍性という特殊にヨーロッパ的なコンセプトを神格化してしまった。

タイトモデルの構造に分析のメスを加えよう。数学の論理とタイトモデルには照合が認められる。数学の論理に照らせばタイトモデルが適切なモデルであり唯一の理想である。EU においては観察言語の多数性が目立つから放っておけば、数学の論理だけが論理的と見なされ、タイトモデルが選好される運びとなる。また観察言語と単神教には親和性が認められる。単神か複神かが先鋭な論点になりやすいからである。しかも単神教とタイトモデルの間には交感性が発生する。1か0かという選択肢に馴染み易いからである。

タイトモデルの特質は次の四点に纏められる。

- ① 例外を認めない。
- ② 均一かつ斉一なルールの運用に傾く
- ③ 緊密かつ親密な統合が好みに適う
- ④ 隙間がないので窮屈すぎるし狭過ぎる

タイトモデルの運命を見通して置こう。

タイトモデルでは EU は崩壊する。なぜなら独自性にこだわるお国柄の国には快適な居場所が

なくなってしまうからである。英国がその好例である。伝統にむやみにこだわる。通貨はやっばりポンドで無くちゃ嫌や。国王も議会も英国風に調えたい。独自性を認めたがらないタイトモデルでは UK を離脱に追い込むことは避けがたい。

英国民は half leave / half remain を選択した。UK が分裂した訳ではない。別の言葉を用いれば UK はルースモデルを選んだ。

ルースモデルの構造の特性は次の四点に纏められる。

- ① 例外を僅かに認め、押さえ込む。
- ② 例外の実例は雑多・さまざまになる。
- ③ コア core countries と peripheral or fringe countries に分ける
- ④ コアはタイトにまとめ、ふちはルースに残す。

フレーゲの意味論とルースモデルの関連についてここで再点検を加えて置く。フレーゲの意味論では真理値と虚偽値を二分する際に真偽不明の命題の値を不明から虚偽に写像している。こうした写像により要素の所属が一義的に画定する透明なコンセプトが設定されるが、こうした真偽値を伴う透明なコンセプトは日常のコンセプトとは大幅にずれている。日常使用のコンセプトでは時に所属不明の事態や要素にも遭遇する。こうした場合にはごく大らかで大雑把ともいえる対応が取られることが普通である。こうした対策に合わせてフレーゲの意味モデルに修正を加える。自然命題処理を新たに導入する。言い換えれば、真偽不明の命題を真と偽に二分する扱いに修正すればコンセプトの透明度は下がるものの、日常のコンセプトに遥かに近づくことになる。確実に真という命題のほかにはほぼ真であるという命題を含む事になるので、コンセプトの定義は一義的にならず、例外を付加するという累算式になる。こうした操作を加えてフレーゲの意味モデルに修正を加えないと、フレーゲのモデルにあわないものは非論理的であるという独断的な結論に一足飛びに飛び付くことになり、ルースモデルを排斥する理由となりかねない。ここに EU 統合に伴うロジカルな平面における困難が横たわっていることは見逃せない。

2. 周辺国の立場

EU に於ける英国の位置を見直して見よう。もともと英国が目指したヨーロッパ共同体は経済的な共同体であった。物品の流通に関税をかけない自由市場の領域であった。ところが大陸のヨーロッパの側では古き良き中世ヨーロッパの復活という夢物語が正夢になってしまった。政治的にも統合した完全な共同体である。島国と大陸の夢は異なり同床異夢の事態が発生し固定した。

財政再建に対するメイ首相の思い入れが強すぎて老婦人たちからキツイ反発が返ってきてしまったことが事態を更に悪化させた。しまった。後の祭りであった。大事な、大事な過半数の議席を失う。これでイギリス議会は迷走状態に突入する。

EU の内部に於ける英国の位置がかくて見えなくなる。全能の議会は首相の解散権に紐をつけいわば首相の右腕を縛ってしまったのである。三年半の迷走状態。世界中の誰もがあきれかえりやがてうんざりし、嫌気が射した。

EU に於いて英国の占める位置を再確認しよう。

- ① 英国は EU の域内に位置する。
- ② 英国は周縁に位置する例外国である。
- ③ 英国は境界領域になる。

④ 英国は EU と BC 英連邦に両属する。

⑤ 英国は EU に英語教育を提供する。

UK と EU の接点はアイルランドに出現する。アイルランドと北アイルランドの境界線は二重の国境線である。境界線はまず UK とアイルランドの国境線である。同時に境界線は UK と EU の境界線でもある。この二重の境界線の管理が問題の焦点をなす。この二重の境界線を管理するには二種類の国境管理の法制が二重に必要となる。

アイルランドは EU と UK にいわば両属する地域である。

英国の EU 離脱に何が必要か。UK とアイルランドの間で二国間の関税協定を結ぶ事を EU 側が認める事が要をなす。UK とアイルランドの関係を EU と外部の関係の一部の例外として位置づけ、EU と UK との関税協定とは別の二国間に限られる関税同盟を締結するという特別の関係を容認することが肝心である。こうした例外措置に関する提案を日本政府が UK と EU の間に入って行いその仲介をなすことが肝心のポイントをなす。連絡会議がこうした動きへの呼び水となり両サイドへの呼びかけを行うことが望ましい。日本政府としてはダブリンに銀行の本社が進出すれば UK 内の営業も出来るし、かつ、EU 内の営業も出来るようになることが最善の解決策である。ダブリンに名ばかりの本店を置き、ロンドンに実質的な本店業務を行う支店を設ける訳である。

他の例外国にも目を向けて置く。周縁国の事例にウクライナがある。ウクライナはウクライナ合衆国となる。ウクライナはロシア世界と EU に両属する。ウクライナは西共和国と東共和国とクリミア共和国の結合する合衆国になる。

他の例外国に Exit countries がある。ギリシャとイタリアがその例である。Exit countries は移民への入り口（母国からの出口）になる。一時受け入れの制度を新設する。受け入れ国が責任を取るという原則に例外を設ける訳である。

Exit countries は何をするのか。EU への受け入れの準備である。具体的には移民や難民に対して EU 標準語教育を実行する。

イタリアの選択はこうである。イタリアにはルースモデルが良く似合う。イタリアは一時避難所になればいい。難民キャンプは語学学校になる。そこで EU 標準語を学習する。ギリシャにも同様の地位が似合う。

EU 標準語とは何か。EU に標準語を定める。人類共通語からまず一つ英語を選ぶ。次に EU 域内語からフランス語とドイツ語を選ぶ。（更に日本語教育を補助的に行う）

3. EU における日本語教育の位置。

EU に於ける日本語教育の位置はこうである。観察言語が多数である EU において実行言語の学習を行う。日本語教育がその候補となる。実行言語の学習は移民や難民が EU の域外に移住する際に役に立つ。移民の家族が母国や第三国に移りやすい。ところで EU に於ける日本語教育を担当する部局はどこか。日本語教育はどこかの所管か。言うまでもなく日本政府の所管である。担当部局はどこか。内閣府である。

内閣府と日本語教育の関係はこれまで不透明であった。内閣府には現時点では日本語教育を担当する部局が存在しない。どの局のどの課に所属するのか。所属が今のところ不明である。ではどうすればいいのか。新たに担当部局を設ければいい。

日本語教育掛の設置が喫緊の課題である。こうした課題に答えるために内閣府に日本語教育担

当の掛を新設する。どの部局に新設するのか。

内閣官房の企画調整課に新設する。(同時に総合調整掛を併設する)

更に日本語教育室の設置を進める。日本語教育掛を日本語教育室に改組する。

定員は次の通り。

室長(非常勤)と職員三名からなる。

内政掛と外務掛と学務掛である。

日本語教育室の任務は次の通りである。

室長の下に紫式部学院を置く。

内政掛は出入国行政と道府・市町村を担当する。

外務掛は国連公用語化を担当する。

学務掛は留学生教育と紫式部学院を担当する。

(県を将来は府県連合にまとめ道府に格上げする)。

紫式部学院の設計図を示して置く。

- ① 紫式部学院は派遣日本語教師の集団である。
- ② 全世界を九ブロックに分け各十の支部を置く。
- ③ それぞれの支部から近隣の大学に出向する。
- ④ 所長と六人の教師と三人の事務員を置く
- ⑤ それぞれのブロックごとに十の支部を於置く。
- ⑥ EUと東海アジアには十五の支部を置く。
- ⑦ 教師は近隣の大学で日本語日本事情を教える専門の教師とする。

立ち上げの順序は次の通りである。

まず紫義塾を立ち上げる。

- ① 紫義塾は日本の国内に設置する日本語学校である。
- ② 全国の市町村から七か所を選び設置する。
- ③ 事務職員と教室は市町村が用意する。
- ④ 文部省の国費留学生をそれぞれ毎年十人ずつ受け入れる。
- ⑤ 日本語教師は国が派遣する。

紫式部学院の組織図はおよそこうなる。

- (1) 紫式部学院には校長(当面は非常勤)を置く。
- (2) 校長室は浦和の日本語国際センターに置く。
- (3) 日本語教師の溜まり場となる大部屋を都内に新設する。
- (4) 国際交流基金が派遣事務を担当する。

紫義塾の概要はこうである。

- (a) 例えば津和野町に教室を用意する。
- (b) 十人の文部省国費留学生を一年間津和野町に受け入れる。
- (c) 二人の日本語教師を国が派遣する。
- (d) 派遣の事務は日本語教育掛が担当する。

地球規模の公共財として人類標準語を形成し提供する。人類共通語の学習である。英語教育(と日本語教育)を行う。英語教育では標準英語を確定し普及を図る。こうした目的を達成するため

に日英の語学同盟を結成する。

標準英語を学習する機会を世界中に提供する。その一環として日本国内では標準英語を教える。日英語学同盟において標準英語の教授法を確立する。日本語教師がアドヴァイザーとして参加する。日本語教育が英語教育を先導する。標準英語を作成する方法は次の通りである。BBC の英語を源とする。発音はもうすこし中間的なものを選ぶ。日英の語学同盟における日本側の担当部局は内閣府に置かれる日本語教育担当部局とする。日英の語学同盟の英名は Anglo-Japanese Speech Alliance である。

参考文献

蓮沼啓介 2019 「国際社会と日本の立場——国際社会の無理解をどう克服するか」神戸法学年報 32号 (2018)